

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
<b>KC2M1C03</b> ピアノⅢ	木村 博子・田中 幸子	クラス分け	1単位	こども学科 2年次	前期	必修			選択必修	BGH
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
子どもの感性の発達に役立つ、子どもに寄り添う音楽を探求する。3、4年次の保育実習、幼稚園教育実習、施設実習を視野に入れて課題曲を確実に暗譜する。幼児を前にしている想定で演奏することを習慣づける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 童謡の意義の振り返り 基本的姿勢、タッチと音色	シラバスを読む。明るい雰囲気を作る	レッスンのカードの使い方を確認、毎週の練習計画	9	9 歌詞の情景とフレーズ 季節の歌	歌詞の長い曲は表現内容を考え練習する	簡易版のない伴奏の仕方を身につける		
	2	二長調のコードとベース 園生活の歌・卒園	ハ長調と二長調のコードを練習しておく	ベース伴奏も並行して使えるようにする	10	10 ハ長調のコードとベース 生活・行事の歌	園以外で耳にする曲や歌は分析的に聴きこむ	ベースの表現の重要性を意識する。		
	3	息づかいとフレーズ 春の抒情的な歌	歌詞読みをして生活の歌との違いを感じる	情景を表す音楽的表現を身につける	11	11 前奏を効果的に用いる よく知られた童謡	フレーズの区切りや歌詞の関係を考え譜を読み込む	スタッカートや切符で表現がわかることを学ぶ		
	4	問と答え 抒情的対話の歌詞	フレーズの位置や区切り方を考え語り掛ける表現を学ぶ	親子・愛情・絆に關する童謡や歌をまとめる	12	12 マルカートとレガート 音の高さと音色	前奏が歌の旋律やリズムを含まない曲の練習法を考える	自己の表現方針・方法を決め編曲し仕上げ		
授業の概要										
ピアノⅠ、Ⅱで学修したピアノ実技の基礎に、新たな課題曲で子どもの感性の発達に役立つ音楽的表現を深めるための個人レッスンをを行う。	5	付点リズムの連続と拍感 生活の歌	軽快な付点リズムの旋律を自由に弾けるよう練習する	アクセントにより表現が変わることを感じ身につける	13	13 変拍子に慣れる 生き物の歌	拍子が変わる曲の拍どりを確実に理解して譜読みをする	特色を持った歌は園児に与える影響を考え表現する		
	6	ピアノの基礎訓練 主旋律と伴奏形のバランス	片手・部分練習で技術を上げフレーズや・形式を学ぶ	フレーズ感・呼吸を意識し表現に繋げるようにする	14	14 同名の曲・複数のペンネーム 夏の歌	作詞・作曲者を丁寧に調べた背景を知る	弾きやすくなるコードの分散やリズムの練習法を考える		
	7	成果発表 個別の目標を立てる	人に伝える、気持ちを込める等を意識して練習する	発表を聴き、感想・意見を述べ、自分の演奏を振り返る	15	15 表現の振り返り まとめ	実技試験課題曲の表現方法を整理し暗譜に取り組む	こどもの感性を高める表現に努め、完全に暗譜する		
	8	情景に合わせた強弱の解釈 楽譜の読み取り	教科書以外の楽譜も調べ自分に合う伴奏形で練習する	曲の強弱の変化を譜読み取り、表現に反映させ身につける						
教科書・テキスト等	ポケットいっぴいのうた(鈴木恵津子・冨田英也編著 教育芸術社)、こどものうた200(小林美実編 チャイルド社)、続・こどものうた200(小林美実編 チャイルド社)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等	日本童謡200選(日本童謡協会編 音楽之友社)、音楽リズム・幼児の歌(小林美実編 東京書籍)				期末試験(ピアノ実技)	80%	テンポ、フレーズ感			
					平常点	20%	毎回の練習状況、レッスンへの取り組み姿勢			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
<b>KC2M1C04</b> ピアノⅣ	木村 博子・田中 幸子	クラス分け	1単位	こども学科 2年次	後期	必修			選択必修	BGH
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
童謡を内容(音楽・歌詞、音楽性、情景・情感)から深く学ぶことにより、心身の発達を促す教材であることを認識する。子どもの歌の伴奏としてふさわしい表現ができること、そして基本の技術が伴った演奏ができるようになる。保育現場で通用する演奏を目指し、指定された曲を確実に暗譜で演奏する。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション ピアノⅠ～Ⅲの総括	自己の到達度を振り返り、夏休みの課題を仕上げる	よりよいレッスンカード活用法を考える	9	9 ト長調の分散和音 冬の行事の歌	ト長調のコードを復習しておく	アウフタクトの開始合図に慣れる		
	2	ハ長調の分散和音 行事の歌	躍動感のある明るい音のための打鍵と拍子感を練習	確実に暗譜、幼児に見ながら演奏できるようにする	10	10 付点リズム 冬の軽快な歌	単純な音取りに終わらず、譜読みをする大切さを知る	付点リズムの軽快さを自然に出せる訓練法を考える		
	3	二長調のコード伴奏 園生活の歌・卒園	合理的な連指を予習しておく	同名の他の曲についても調べて練習	11	11 両手伴奏とベース伴奏 元気な童謡	基本コードから少し発展させたC6について調べ練習	オリジナルはそれに近い前奏をつける意義を考える		
	4	コードの形が変わる伴奏 園生活の歌・卒園	アルペルティバスのみ、分散和音のみで伴奏しておく	伴奏部分と歌のない後奏部分のバランスや奏法を研究	12	12 旋律の弾き方・連打 リズムカルな歌	旋律のソルフェージュの予習をしっかりと行う	旋律のリズムが細かい曲で効果的に音を削る方法を模索		
授業の概要										
ピアノⅢまでに学んだ表現法の発展のために、音楽理論やソルフェージュも駆使して、基礎訓練を含んだ個人レッスンをを行う。曲の構成や背景、歌詞を調べて実技練習に臨む。課題は確実に暗譜すると共に、子どもに向き合う想定に慣れるよう指導する。	5	語りかける表現と音色 童謡の名曲	歌詞の内容とアーティキュレーションに気を付けて弾く	フレーズをしっかりと読み取り歌詞に合った世界観を研究	13	13 6/8拍子を考える 行事の歌・お別れ会	ハ長調のコード伴奏(分散和音)を転ばないように練習	左右の音符数、旋律と伴奏(役割)のバランスを研究		
	6	付点リズムの順次進行 秋のあそび歌	ハ長調の分散和音を整理し、無駄のない右の連指を練習	園児と一緒にリズムカルに弾き歌いできるようにする	14	14 ハ長調のベース伴奏 行事の歌・卒園	旋律とベースを別々に練習してコードを書きこむ	両手伴奏による弾き歌い発展させる		
	7	音の風物詩 秋の抒情的な歌	オリジナル楽譜を調べ、楽譜や表記法を知る	原調二長調と園児向きのハ長調を練習	15	15 ピアノⅣの振り返り まとめ	旋律と歌詞、ベースとフレーズを大切にしながら暗譜	童謡の目的、効果、勉強法をまとめる		
	8	連弾 アンサンブルを楽しむ	自分のパートの個人練習に責任を持って取り組む	お互いの演奏を注意深く聴き、意見を交わらせるよう研究						
教科書・テキスト等	ポケットいっぴいのうた(鈴木恵津子・冨田英也編著 教育芸術社)、こどものうた200(小林美実編 チャイルド社)、続・こどものうた200(小林美実編 チャイルド社)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等	日本童謡200選(日本童謡協会編 音楽之友社)、音楽リズム・幼児の歌(小林美実編 東京書籍)				期末試験(ピアノ実技)	80%	テンポ、フレーズ感、「さんはい」等かけ声			
					平常点	20%	毎回の練習状況、レッスンへの取り組み姿勢			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
<b>KC2M1N24 幼児合奏指導 I</b>	木村 博子・木野 聖子	複数	2単位	こども学科 2年次	前期	必修			選択必修	ABGH
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
幼児教育で扱う打楽器の基本的な奏法を習得し、人と合わせるためのリズム・ソルフェージュを通して合奏を行うための基礎を身につけることができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーションと授業の進め方についての説明	シラバスを読む。	授業に備える。	9	グループによるリズム・ソルフェージュの学習と打楽器のアンサンブルの練習③。	自分の担当パートの確認	授業内容の復習		
	2	基本的なリズム・ソルフェージュと現場で使用する打楽器の様々な奏法および調整の仕方の学修①。	現場で使用する楽器の種類を考える。	授業内容の復習	10	打楽器のアンサンブルの練習④。	自分の担当パートの確認	授業内容の復習		
	3	基本的なリズム・ソルフェージュと現場で使用する打楽器の様々な奏法および調整の仕方の学修②。	前時の授業をもとに練習する。	授業内容の復習	11	打楽器のアンサンブルの練習⑤。	自分の担当パートの確認	授業内容の復習		
	4	基本的なリズム・ソルフェージュと現場で使用する打楽器の様々な奏法および調整の仕方の学修③。	前時の授業をもとに練習する。	授業内容の復習	12	打楽器のアンサンブルの練習⑥。	発表会の練習	授業内容の復習		
授業の概要	5	基本的なリズム・ソルフェージュと現場で使用する打楽器の様々な奏法および調整の仕方の学修④。	前時の授業をもとに練習する。	授業内容の復習	13	打楽器のアンサンブルの練習⑦。	発表会の練習	授業内容の復習		
授業を前半と後半に分け、前半ではリズム・ソルフェージュを行い、後半では打楽器奏法の基礎を学ぶ。現場で必要となる様々な打楽器に触れ、こどもたちの音楽性を伸ばす技術を身につけるとともに、協調性や社会性など幼児期に必要な資質を育む基礎を学ぶ。	6	基本的なリズム・ソルフェージュと現場で使用する打楽器の様々な奏法および調整の仕方の学修⑤。	前時の授業をもとに練習する。	授業内容の復習	14	発表会	発表会の練習	発表会の振り返り		
	7	グループによるリズム・ソルフェージュの学習と打楽器のアンサンブルの練習①。	自分の担当パートの確認	授業内容の復習	15	まとめ～これまでの流れを振り返り、授業内容を復習する。	これまでの授業内容の振り返り	学修のまとめとしてレポートを作成する。		
	8	グループによるリズム・ソルフェージュの学習と打楽器のアンサンブルの練習②。	自分の担当パートの確認	授業内容の復習						
教科書・テキスト等	保育で使える合奏楽譜ベストセレクション(ひかりのくに)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					平常点(積極性、理解度)	60%	事前・事後学修に基づく授業への参加態度			
					課題 / レポート	20%	レポート書式での作成、テーマに沿った内容			
					発表会の評価	20%	パフォーマンスとしての完成度			
参考書・参考資料等	授業中に適宜指示									

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
<b>KC2M1N25 幼児合奏指導 II</b>	木村 博子・原 幸雄	複数	2単位	こども学科 2年次	後期	必修			選択必修	ABCH
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
リード楽器(鍵盤ハーモニカ・アコーディオン)を用いる幼児合奏の指導ができるようになる。マーチングの基礎を学び、現場で活かすことができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーションと授業の進め方についての説明	シラバスを読む。	教科書を読む。	9	マーチング基礎②	前時の授業をもとに練習する	授業内容の復習		
	2	鍵盤ハーモニカの奏法を学ぶ①	課題曲を練習する	授業内容の復習	10	グループによるリード楽器と打楽器のアンサンブル①	アンサンブルの曲目を考える	授業内容の復習		
	3	鍵盤ハーモニカの奏法を学ぶ②	課題曲を練習する	授業内容の復習	11	グループによるリード楽器と打楽器のアンサンブル②	自分の担当パートの練習	授業内容の復習		
授業の概要	4	アコーディオンの奏法を学ぶ①	アコーディオンの奏法調べる	授業内容の復習	12	グループによるリード楽器と打楽器のアンサンブル③	自分の担当パートの練習	授業内容の復習		
リード楽器(鍵盤ハーモニカ・アコーディオン)の奏法と幼児合奏における使い方を学ぶ。合奏を通して聴く力を育み、こどもたちの協調性と社会性を涵養する一助とする。マーチングの基礎を学び、現場での応用力を高める。基礎としてのリズム・ソルフェージュも毎回行う。	5	アコーディオンの奏法を学ぶ②	前時の授業をもとに練習する	授業内容の復習	13	グループによるリード楽器と打楽器のアンサンブル④	発表会の練習	授業内容の復習		
	6	グループによるリード楽器のアンサンブル練習①	前時の授業をもとに練習する	授業内容の復習	14	発表会	発表会の練習	発表会の振り返り		
	7	グループによるリード楽器のアンサンブル練習②	前時の授業をもとに練習する	授業内容の復習	15	まとめ～これまでの流れを振り返り、授業内容を復習する	これまでの授業内容の振り返り	まとめとしてレポートを作成する		
	8	マーチング基礎①	マーチングについて調べる	授業内容の復習						
教科書・テキスト等	保育で使える合奏楽譜ベストセレクション(ひかりのくに)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					平常点(積極性、理解度)	60%	事前・事後学修に基づく授業への参加態度			
					課題 / レポート	20%	レポート書式での作成、テーマに沿った内容			
					発表会の評価	20%	パフォーマンスとしての完成度			
参考書・参考資料等	鍵盤ハーモニカは各自で準備すること									

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC2M3N26 幼児合奏指導Ⅲ	木村 博子	単独	2単位	こども学科 3年次	前期	選択			選択必修	ABGH
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
楽器演奏と身体的動きを組み合わせたパフォーマンスができる。美しい立ち居振る舞いができ、自信を持って子供の前に立つことができる。フォーメーションを考案し、子どもたちを指導することができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション	シラバスを読む	配布資料を読む	9	自由曲による創作②	前時の続きを考える	授業内容の復習		
	2	身体を作る①～姿勢、立ち方、脚と手の動きの基礎	配布資料の身体の動きを实践する	授業内容の復習	10	自由曲によるグループ創作①	曲と振り付け、使用楽器について考える	授業内容の復習		
	3	身体を作る②～方向、足の運び、回転	身体の動きを復習する	授業内容の復習	11	自由曲によるグループ創作②	自分の担当パートの練習	授業内容の復習		
	4	「ラ・フォリア」の練習。カスタネットのリズム練習	カスタネットの様々な奏法を復習する	授業内容の復習	12	自由曲によるグループ創作③	発表会の練習	授業内容の復習		
	5	「ラ・フォリア」のパターンによる創作①	足の運びとカスタネットのリズムを考える	創作内容を紙にまとめる	13	自由曲によるグループ創作④	発表会の練習	授業内容の復習		
	6	「ラ・フォリア」のパターンによる創作②	腕の位置と方向を考える	創作内容を紙にまとめる	14	発表会	発表会の練習	発表会の振り返り		
	7	「ラ・フォリア」のパターンによる創作③	フォーメーションを考える	創作内容を紙にまとめる	15	まとめ～これまでの流れを振り返り、授業内容を復習する	これまでの授業内容の振り返り	学修のまとめとしてレポートを作成する		
	8	自由曲による創作①	曲とダンスの種類、使用楽器を考える	授業内容の復習						
教科書・テキスト等	プリント配布			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等	カスタネットは各自で準備すること				平常点(積極性、理解度)	60%	事前・事後学修に基づく授業への参加態度			
					課題 / レポート	20%	レポート書式での作成、テーマに沿った内容			
					発表会の評価	20%	パフォーマンスとしての完成度			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC2M3N27 幼児合奏指導Ⅳ	木村 博子	単独	2単位	こども学科 3年次	後期	選択			選択必修	ABGH
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
楽器伴奏つきの短い音楽劇を創作することができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション	シラバスを読む	既存教材に目を通す	9	「ぞうくんのさんぼ」の音楽劇創作③～合わせ練習	自分の担当の練習	授業内容の復習		
	2	既存曲の練習①	担当部分を練習する	授業内容の復習	10	「ぞうくんのさんぼ」の音楽劇創作④～合わせ練習	自分の担当の練習	授業内容の復習		
	3	既存曲の練習②	担当部分を練習する	授業内容の復習	11	「ぞうくんのさんぼ」の音楽劇創作⑤～合わせ練習	自分の担当の練習	授業内容の復習		
	4	既存曲の練習③	全体の流れを把握する	授業内容の復習	12	「ぞうくんのさんぼ」の音楽劇創作⑥～発表会への準備	セッティング等考える	授業内容の復習		
	5	既存曲の練習④	発表会に向けた練習をする	授業内容の復習	13	「ぞうくんのさんぼ」の音楽劇創作⑦～発表会への最終調整	本番に向けた準備	授業内容の復習		
	6	発表会	発表会に向けた練習をする	発表会の振り返りをまとめる(レポート1)	14	発表会	本番に向けた準備	授業内容の復習		
	7	「ぞうくんのさんぼ」の音楽劇創作①～担当を決める	原作を読み、構想を練る	自分の担当の創作	15	全体まとめ	発表会の振り返り	授業のまとめ作成(レポート2)		
	8	「ぞうくんのさんぼ」の音楽劇創作②～意見を出し合う	自分の担当の創作	授業内容の復習						
教科書・テキスト等	プリント配布			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等	保育で使える合奏楽譜ベストセレクション(ひかりのくに)				平常点(積極性、理解度)	60%	事前・事後学修に基づく授業への参加態度			
					課題 / レポート	20%	レポート書式での作成、テーマに沿った内容			
					発表会の評価	20%	パフォーマンスとしての完成度			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KC2M1XT28 ハーモニーⅠ	中村 真貴	単独	2単位	こども学科 2年次	後期	必修			選択必修	CGⅠ
授業のテーマ及び到達目標	授業計画									
<p>本来の機能と和声の基礎を学び理解したうえで、幼児期の音楽教育によりよい影響と楽しさを与えることの出来る指導者を育成することを目標とする。</p> <p>授業の概要 ハーモニーⅠでは、昨今の幼児の音楽環境に対応し実践力をつけるため、コードネーム、キーボード・ハーモニーの基礎を学び、簡易伴奏付け、弾き歌いへと発展させる。</p>	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	音楽の成り立ち、主要三和音と副三和音	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする	9	歌唱曲（童謡）の分析と発展	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする		
	2	和音とコードネーム・キーボードハーモニー①スケール	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする	10	童謡の伴奏付け/キーボードアンサンブル①	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする		
	3	和音とコードネーム・キーボードハーモニー②カデンツ	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする	11	童謡の伴奏付け/キーボードアンサンブル②	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする		
	4	和音とコードネーム・キーボードハーモニー③コード	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする	12	童謡の伴奏付け/キーボードアンサンブル③	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする		
	5	和音とコードネーム・キーボードハーモニー④これまでの復習	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする	13	童謡の伴奏付け/キーボードアンサンブル④	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする		
	6	コードネームによる和音の連結（属7を含む）	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする	14	童謡の伴奏付け/キーボードアンサンブル⑤	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする		
	7	I、IV、V、V7による伴奏付け	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする	15	まとめ（総復習）	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする		
	8	コードネームによる童謡の伴奏付け（片手伴奏、両手伴奏）	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする						
教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に指定		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等				期末試験	60%	実技試験				
				課題/レポート	20%	課題への取り組み				
				平常点（態度・行動観察）	20%	受講態度				